

ポスター発表
読む・書く2

[P03-4]

小学生の英単語読み習得に影響をおよぼす予測因子に関する後方視的検討
低学年における認知能力ならびに中学年以降のローマ字読み成績との関連○細川 美由紀¹、室谷 直子²、井上 知洋³

(1. 茨城大学、2. 常磐短期大学、3. 香港中文大学)

1. 目的

近年では、国際化・グローバル化の推進に伴い、英語教育に対する認識が高まってきている。とりわけ小学校では、2020年度から第3学年より外国語活動が必修となり、第5・第6学年では「聞く・話す」の音声的指導に加え、「読む・書く」という文字（アルファベット）に関する2技能にも焦点が当てられた外国語科の授業が必修となった（文部科学省、2017a）。畑江(2017)は、中学校における英単語を読む指導の前に、アルファベットの学習に加え、音韻（素）認識能力（phonological awareness）の訓練を十分に行うことが重要であると述べている。しかしながら、小学生における音韻認識能力を含む音韻処理能力の発達が英単語読みにどのように影響をおよぼすのかについてはまだ十分に明らかにされていない。一方、アルファベットの読み書き指導に先行して、小学校3年生からローマ字の読み書き指導が開始されている（文部科学省、2017b）。ローマ字も英語と同様にアルファベットを使用した表音文字であることから、ローマ字読みも英単語読みと同様に音韻処理能力の関連性が指摘されている（石井・細川、2018）。加えて細川・佐藤(2019)は、対象となった小学校高学年児童の多くが英単語を読む際にローマ字の読み方を手掛かりにしていることを報告しているものの、ローマ字読み能力が英単語能力にどの程度関与するのかについては実証的な研究はなされていない。

2022年に文部科学省が行った調査では、「知的発達に遅れはないものの「読む」又は「書く」に著しい困難を示す」とされた小中学校における児童生徒の割合は3.5%と報告されている（文部科学省、2022）。これらの児童生徒の中にはひらがな・漢字といった日本語の読み書きだけでなく、英語においても読み・書きに困難を抱えている者がいることが予想される。そのため、英語の読み書きの困難に関するニーズをできる限り早い段階で把握するには、その背景にあると想定される音韻処理能力やローマ字読みの習得状況について、小学校高学年より前の段階で検証しておく必要があると考えた。そこで本研究では、小学5年生時点での英単語読み習得の状況について、小学2年生時点における認知能力ならびに小学3年生以降のローマ字読み能力がどのように予測しうるのかについて後方視的に検討することを目的とした。

2. 方法

対象：公立小学校に在籍する35名（男子23名、女子12名：調査開始時7歳10カ月～8歳9カ月）。

調査期間：20XX年（小学2年生）、20XX+1年（小学3年生）、20XX+2年（小学4年生）、20XX+3年（小学5年生）。

課題：(1)視空間処理：5つの図形から異なる図形を選択。(2)音韻処理：①RAN課題ならびに②音韻削除課題を実施。(3)形態素意識：単語類推課題（口頭で単語とその単語の語形を変化させたものを例示し、例示通りに指示された単語の語形を変化させる）を実施。(4)ローマ字読み：清音、濁音、半濁音を含む14（5年生では特殊音節も含めた20）のローマ字を音読。(5)英単語読み：英単語16語を音読。上記5課題のうち、2年生時点では(1)～(3)を、3・4年生時点では(4)を、5年生時点では(4)・(5)を実施。RAN課題においては反応時間を、それ以外の課題については正答数を分析対象とした。

3. 結果および考察

英単語音読課題における対象児全体の平均得点(6.11 ± 5.26)を基準として、6点以下の対象児を英単語低得点群(N=16)、7点以上の対象児を英単語高得点群(N=19)として、群ごとに2年生時点の認知課題および3年生から5年生時点におけるローマ字読み課題得点の平均を求めた。さらにそれらの得点に群間差が認められるのかを検討するため、各課題得点においてt検定を実施した。

その結果、認知課題ではRAN課題($t(33)=2.30, p<.05$)、音韻削除(モーラ)課題($t(33)=2.25, p<.05$)において低得点群に比べ、高得点群で有意に得点が高かった。このことから、小学校2年生時点における音韻処理の自動化とモーラレベルの音韻処理の能力は、小学校5年生時の英単語読み能力と関連する可能性が示唆された。一方、ローマ字読み課題では全ての学年(3年生: $t(33)=3.38$, 4年生: $t(33)=6.50$, 5年生: $t(33)=4.64, p<.01$)において、英単語高得点群が低得点群に比べ得点が有意に高かった。このことから、小学校5年生時点における英単語読み能力はローマ字を学習して間もない3年生の時点から5年生にかけてのローマ字読み能力と関連する可能性が示唆された。これらの知見は、英語を学習して間もない小学生が英単語を音読する際にはローマ字知識を手掛かりとしていることが反映されたものとして注目される。しかし、本研究と同一対象児で検討を行った細川・室谷・井上(2022)では、小学校3年生から4年生にかけてのローマ字読み成績の状況と音韻処理課題成績との間に関連性は認められなかったことから、音韻処理とローマ字読み能力は異なる側面から英単語読み能力に影響をおよぼしていることが推測された。

4. 引用文献

畑江美佳(2017) 小学校外国語教科化に伴う「読む」指導の在り方—『適期』に『適切』な指導を一。鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要, 8, 15-24.

細川美由紀・佐藤花菜(2019) 小学生における英単語読みに影響をおよぼす認知処理過程の検討。日本LD学会第28回大会発表論文集。

細川美由紀・室谷直子・井上知洋(2022) 小学生のローマ字読み習得に影響をおよぼす予測因子に関する縦断的検討。日本LD学会第31回大会発表論文集。

石井咲姫・細川美由紀(2018) 小学生におけるローマ字読み習得と音韻処理能力の関連。日本特殊教育学会第56回大会発表論文集。

文部科学省(2017a) 小学校学習指導要領(平成29年告示)。 https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

文部科学省(2017b) 小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説国語編。 https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf

文部科学省(2022) 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について。 https://www.mext.go.jp/content/20221208-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf

5. 倫理的配慮

本研究における個人情報における適切な取り扱いおよび倫理的配慮に関して、聖学院大学研究倫理委員会の承認を得て実施された(承認番号: 第2018-7号, 研究責任者: 井上知洋, 研究分担者: 細川美由紀)。また、利益相反関係はない。